

2010年 春号

### 第69号

僧伽編集委員会

〒921-8031  
金沢市野町2丁目32-4  
徳法寺内  
TEL (076) 241-5219  
題字 本多 千翠

# 僧伽



山下菊二「あけほの村物語」

さるべき業縁のもよおせば、  
いかなるふるまいもすべし

歎異抄 第十三条

歎異抄  
親鸞聖人亡き後、聖人の言葉を語り継いだ貴重な著作。唯円の作とされている。

## ルポルタージュ

常徳寺 西山 彰

ルポルタージュとは、「現地報告」とか「報告文」という意味のフランス語である。

戦後日本の美術界に、ルポルタージュ絵画といわれる一派が出現した。山下菊二（一九一九〜一九八六）は、その運動にかかわった代表的な画家の一人である。

写真の「あけほの村物語」は、山梨県曙村で実際に起きた事件に取材したものである。それは、非人道的な山林地主に対して立ち上がった農民の一人が、地主に頭を棒で殴られ、川で溺死したという悲惨な事件であった。

それにしても、この絵は見れば見るほど謎めている。

被害者であるべき農民たちは、犬の姿で描かれ、どこかユーモラスでさえある。また横暴の限りを尽くした地主は、画面に一切描かれていない。地主は最も醜悪に描かれるべき存在のはずだ。何よりもそう描くことこそが、この事件の真相を語ることはないのだろうか。

先日NHKの日曜美術館で山

下菊二が取り上げられた。この作品の魅力について司会者の姜尚中氏は、次のように語っている。

「加害者とか被害者とか、作品とそれを観る人とか、そういった境界が侵されていつて、自分の安定感が壊されたような感じがする。」

普通なら、地主⇨加害者⇨悪、農民⇨被害者⇨善という図式でこの事件は描かれるべきところであろう。しかし私たちがこの作品の前で不安な気持ちになるのは、まさに、そうなっていないからなのだ。

この絵は、私たちが事件の傍観者の立場に立つて安心することを決して許さない。誰もが加害者にも被害者にもなりうる存在であるという事実を、どこまでも突きつけてくるのだ。この画家山下の態度は、見る者に臨場感を与えると同時に、一種の混乱をもたらす。剥き出しの事実とは、常に私たちが混乱させ沈黙させるものなのだ。ここにこそ薄っぺらな新聞報道など遥かに及ばない、真のルポルタージュといえるものがある。

# 和讃に学ぶ

## 第三十一回

徳法寺 杉谷 浄

### 宗教はみんな一緒？

「いろんな宗教があるけれど、結局のところは神様も仏様も同じようなものなんでしょう？」とか「仏教にはいろいろな宗派があるけれど、お釈迦さまから始まっていくのだから、基本的に一緒ですよ」と聞かれることがあります。

宗教や仏教に対する考え方自体が、人それぞれ違いますから、このように聞かれても、どのように答えればいいのかわからないところ。それでも強いて答えるならば「本当はその通りであるはずなのですが、現実にはそうはなっていない」というのが的確ではないかと思えます。

親鸞聖人の和讃に次のようなものがあります。

### 十方三世の無量慧

おなじく一如に乗じてぞ

二智円満道平等

摂化随縁不思議なり

「無量慧」とは、真実を見つめる智慧がはかり知ることができない仏を表す言葉です。それが「十方三世」とありますから、ありとあらゆる場所、時代におられる無数の諸仏方、という意味です。

「一如」とは、真実が場所や時代によって変わるものがない、ただひとつのものであるという意味です。ですから、どれだけ多くの仏がおられても同じ真実を悟っているはずなんです。

しかし実際には多くの宗教・宗派が存在します。これは、教えとして語られる内容が一様でない事を示し

ています。親鸞聖人はその原因を「二智」として示しています。これは智慧には二種類あるということです。

一つは真実そのものの実智、もう一つは「摂化随縁不思議なり」とあります。権智です。「摂化」とは相手を受け入れたうえで最もわかりやすい教えに変えることと、「随縁」とは縁に随いその状況に応じて説かれることで、実智に目覚めた仏だからこそできる、私たちの思義を超えた教化のための知恵です。

この智慧は相手の考え方に応じて一見異なったかたちをとります。例えば、多神教や一神教、先祖崇拜、自然崇拜など、世の中には様々な考え方がありますが、その数だけ教えが生まれます。しかし、実智が同じですから、言葉は違ってもその向こう側にある本当に伝えたいものはただ一つであるということです。

すべての人が救われるために、各々が受け止められ

る教えがなければなりません。実智と権智が共に十分に備わつてこそ、初めて教えはすべての人の手元に届き平等なものとなる、というのが「二智円満道平等」です。ですから世界中に様々な考え方がある以上、多くの宗教・宗派があることは自然なことなのです。

それにも関わらず「現実にはそうはなっていない」と言わなければなりません。すべての宗教、宗派が真実によつていくのかといわれれば、実際には人間のエゴによるものが少なくないからです。もともとそうであつたものもあれば、途中からそうなつてしまったものもあります。もしかすると、一部の人間や集団のエゴによつて成り立っている宗教の方が多いかもしれません。親鸞聖人にも次のような和讃があります。

### 五濁増のしるしには

この世の道俗(どうじやく)は

外儀は仏教のすがたにて

内心外道を帰敬せり

濁りが増して、何が真実なのか分からなくなつてしまつていくしとして、この世の中の聖職者も世俗のものも皆ことごとく、一見仏教に帰依しているように見えても、内心は私利私欲を求め外道を帰敬してしまつていくと嘆いておられる和讃です。それぞれの宗教、宗派が自分達の私利私欲で動いていけば、当然、宗教間、宗派間の争いが絶えない事になります。

もし宗教が、一つの真実によつていくのなら、各々の宗教が民族や思想を超えて協力し合つていくことでしよう。そうでなければ宗教は民族や思想の対立をさらに煽る形になつていくはず。皆さんの目にはどこに映っていますか。

# 「御絵伝」でたどる 親鸞聖人のご生涯 (14)

親鸞配流

現在京都の左京区岡崎天王町に「岡崎別院」がある。ここは、もともと九条家の別荘であり、親鸞聖人が庵を結ばれた地として有名である。聖人はここから法然上人の吉水に通われたのである。

ちなみにこの別院の敷地内に現在「専修学院」という大谷派の教育機関があり、私は大学卒業後ここで一年間学ばせてもらったことがある。

さて場面はその岡崎の庵室である。承元元年(一二〇七年)三月十六日、聖人がまさに越後に向けて旅立たれる情景が描かれている。御年三十五歳であった。僧籍を剥がされ、藤井善

信として越後国府(現上越市)に流された聖人は、この地で約7年をすごされることとなる。

①引き入れられた輿に、室内からお乗りになられる様子が描かれている。これはお見送りをされる御内室である恵信尼がそこにおられることを暗示していると思われる。

③には名残惜しそうに見送る弟子たち、②でいよいよ輿が門下へ担ぎ出されるさまが描かれている。

比叡山の衆徒に仇をなす者がいないとも限らないというところで、最初護送には多くの人々が付いた。やがて付き添いはすべて帰され、役人のほかは④西仏房⑤蓮位房だけになった。きびし

い配流の旅であったことが伺える。

その一方で、聖人が身内に護衛され、輿に載せられていることは意外に思われる方も多いだろう。ここに描かれている通りだとすれば、罪人としてはいささか丁重な扱いである。

どうも流罪というのは、当時さほど重い刑罰ではなかったようである。もともと奈良時代に死罪に次ぐ刑罰として設けられた流罪ではあったが、四百年がたつて様子が変わっていったらしい。

また妻の恵信尼の実家が越後で、流罪先の国府の近くだったこと。聖人の父有範の兄宗業の赴任地が越後だったこと。これらのことから、流罪地の決定にしても、ある程度本人の希望が受け入れられたのではないかと想像される。

(彰)



# 真宗人物伝

第十八回

徳法寺 杉谷 浄

## 親鸞の弟子・性信

すが、その出身から見てみましょう。

親鸞聖人には多くの弟子がおられたようです。その事はいくつかの資料に残されていますが、妙源寺本の『親鸞聖人門侶交名牒』には三百十余人の弟子がいたと書かれています。その多くは親鸞聖人が四十二歳から約二十年間過ごされた北関東にいます。関東の弟子の中でも有力な二十四人を二十四輩と言います。さらにその中でも大きな力をもっていたのが報恩寺の性信、専修寺の真仏、無量寿寺の順信です。今回は二十四輩第一と言われた性信についてみてみます。

生まれは常陸国(茨城県)の鹿島神宮の神官を務める大中臣氏とされます。大中臣氏は中臣鎌足で知られる中臣氏の叔父の末裔で、神宮祭主などを務める家系です。伊勢神宮や春日大社も同系の大中臣氏です。平安時代に神宮の称号で呼ばれていたのは伊勢神宮、鹿島神宮の他には千葉県の香取神宮だけです。これだけでも神官の家柄としては超一流のエリートであることがわかります。更に鹿島神宮は単なる神社ではなく蝦夷に対する大和朝廷の最前線でもあったことが、宝物殿にある蝦夷の王アテルイの首と首桶からもわかります。当時の神官は侍でもありま

したから、強力な軍事力を持つていたこともうかがわれます。

そのようなエリートの生まれである性信が親鸞聖人と出会ったのは京都であったと言われます。十八歳の性信は三十二歳だった親鸞聖人の弟子となり、越後流罪にも同行します。相当に高い教養を持った方であつたらしく、親鸞聖人の性信に対する信頼が厚いものであつたことは残された手紙からうかがわれます。また親鸞聖人が京都に帰られた後、関東の弟子たちの中心的な役割を果たしていたらしく、鎌倉幕府で行われた訴訟問題でも先頭に立つて問題解決に当たっています。

恩寺がもとは真言宗の寺であつたことから、横曾根門徒そのものが真言宗の信徒であつた可能性があるということ、さらに性信自信も真言宗と深い関係があつたと思われることが挙げられます。この事は性信を先師とする真言宗の寺が今でも群馬県にあることや、性信と真言宗の寺である醍醐寺との関係がうかがわれる資料がある事でもわかります。元々が神官の家の出ですから、何かを捨てて親鸞のもとに弟子入りしたというよりは、自分の持っている宗教観で浄土の教えに帰依したということなのでしょう。この事は当然親鸞聖人もご存じの事でしたでしょうし、その事に特に問題を感じていたわけでもなさそうです。

この性信を開基とする寺が坂東報恩寺です。そして報恩寺を中心とする門徒を横曾根門徒と言います。この門徒集団は真言宗に対しても信仰を持っていたようです。その根拠として、報

## 杉谷浄の

### ラジオ案内

三月二日(火)  
四月六日(火)  
五月四日(火)  
六月一日(火)

の午後一時半からFM・N1(七十六・三MH)で放送します。番組名は「生活一番シャトル便 住職のよもやま話」です。再放送は放送日の週の土曜夜八時からです。インターネットでも聞けます。

## 『心の相談室』

毎月第四土曜日  
午後三時～五時  
東別院横

「いちよう館」二階  
相談料無料

日常生活でのいろいろな悩み、家族のこと、友達のこと、学校のこと、仏事の疑問等に、僧侶が対応します。

## 真宗豆知識

## 享祿の錯乱

「享祿の錯乱」という事件をご存知だろうか。これは蓮如亡き後、ここ北陸で起こった最も悲惨な出来事である。その中心にいたのは、蓮如の六男の蓮淳であった。彼は第九代法主実如の側近として、のちには第十代法主証如の後見人として、実質的に教団を動かした人物である。

蓮如は、生涯に五人の妻を娶り、十三男十四女をもうけた。そして法主実如(五男)を中心として、各地に子供たちを住持させ、本願寺教団の維持発展を願った。しかし蓮如の死後、教団内に次第に不協和音が見られるようになった。そのなかで蓮淳は、実兄である本願寺第九世実如の相談役として頭角をあらわしていく。彼が行ったことは、教団の中央集権化と勢力強化で

あつた。たとえば本願寺の一族の中に資格を設ける「二門一家制」の制定。これにより親鸞直系の法主およびその一門の優位性が定められた。また永正十五年(一五一八年)には、新たな法令を定めた。それは、俗に「三法令」と呼ばれており、

- 一、武装・合戦の禁止
  - 二、派閥・徒党の禁止
  - 三、年貢不払いの禁止
- という内容だった。

また蓮如の著わした御文の中から八十通を選び出し、五帖に編集し現在のようなかたちを整えたのも、実如に命じられ、甥の円如とともに行った蓮淳の仕事だった。

大永五年(一五二五年)に実如がこの世を去つて、蓮淳はまだ十歳の第十代法主証如の後見役を託された。これをきっかけに権力を握った彼は、次々と教団内の政敵を退けていった。実如の在世中に、蓮如の最後の妻蓮能の子供たちは、内乱に乗じて教団から一掃

されていた。この事件はのちに「河内国錯乱」と呼ばれるが、その後練り返される権力闘争の序幕だったといえる。「享祿の錯乱」はその延長線上に起こったのである。

まず目をつけられたのは、近江国堅田の本福寺だった。同寺は末寺の中でも歴史が古く、蓮如ともゆかりの深い由緒ある寺である。また信徒も多く堅田が琵琶湖水運の拠点として栄えていたことから、裕福な寺でもあった。蓮淳はこの本福寺に難癖をつけ、ついには破門してしまうのである。

次に蓮淳と事を構えることになるのは、松岡寺・光教寺・本泉寺の加賀三山だった。

これらの寺には蓮如の三男蓮綱、四男蓮誓、七男蓮悟がそれぞれ住持していた。特に松岡寺と本泉寺は、「両御山」と呼ばれ、当時最高機関として室町幕府から認められるほど加賀の国で実

権を握っていた。

それとは別に加賀の国には、超勝寺・本覚寺という蓮如以前からの本願寺の末寺があつた。ところが、この二か寺は加賀三山から圧迫を受けて、すくなくならず恨みを抱いていた。蓮淳は、この関係を利用して、この二か寺に加賀三山を攻撃する命令を下すのである。超勝寺・本覚寺側が

「大一揆」、松岡寺・光教寺・本泉寺側が「小一揆」と呼ばれたため、この戦いを「大小一揆」と呼ぶ。(この一揆は先の堅田本福寺破門事件とあわせて「享祿の錯乱」と呼ばれている。)この

対立軸に細川氏、朝倉氏、畠山氏ら武家加わり、争いは壮絶を極めた。また全国に門徒が「大一揆」側に加担したため、加賀三山は孤立して、ついには陥落させられてしまうのである。

その結果蓮綱、蓮誓、蓮悟ら加賀三山の一族は、ここごとく退けられ、肅清されることとなるのである。

ちなみに、蓮淳は、蓮綱、蓮誓とは異母兄弟、蓮悟とは実の兄弟の関係にある。これをきっかけに、加賀

をはじめとする北陸地方の門徒は本願寺派遣の代官によって直接支配されることになる。その象徴として、天文十五年(一五四六年)金沢に尾山御坊が建立された。

蓮淳は、天文十九年(一五五〇年)八十七歳で没するが、その生涯は法主を中心とした中央集権体制の確立に費やされたといえる。その業績を、乱世における教団の存続をかけた一大改革だったと言うこともできよう。しかし彼の実行した一連の強引な政策は、あらゆる事情を差し引いても、非情ともいえる彼個人の資質によるところが大きいと思われる。

(彰)

本の紹介

日本人の知らない日本語

蛇蔵&海野風子 著  
メディアアクトリー

八八〇円十税

昨年発行されて話題になった本なので、ご存知の方も多くいらっしゃるかとは思いますが、まだ読んでないという方はぜひ手に取ってみてください。日本にいる外国人に日本語を教えている日本語学校の先生のコミックエッセイです。日本語を勉強するために来日する外国人には、かなりの予備知識を持っている人が少なくないようです。でもその人が黒澤映画や任侠映画で日本語を覚えていたならどうなると思います？ 日本では初めての人と会ったときの挨拶が「おひげいなすって」と覚えて

しまうことになり。冗談のようですが知らないということは恐ろしいことで、このようなことはいくらでもあります。

私も旅行中これと似たような経験が何度もあります。

私の場合、現地で言葉を覚えていったのですが、子供たちから覚えた単語を使ったら、幼児言葉だったので思いつき笑われたり、女性から習った言葉を使ったら、誤解を受けたことがあります。でも使っている本人はそれが幼児言葉なのか女性言葉なのか分かりま

せんから、何がおかしいのか理解できないのです。ですから日本語学校の先生は日本語だけではなく日本の文化も教えなければなりません。

また日本人だから日本語が話せるというのは当たり前かもしれませんが、日本語が話せるからといって日本語の事を知っているかと言われれば、そうでもありません。例えば「冷める」と「冷える」の違いはわかりますか？ 「教えて下さいますか」と「教えて下さいませんか」の違いは？ 「さ

ることに気付かされます。さらに色々な国の文化が学生たちの日常を通して紹介されています。このことも、私の常識が世界の常識ではない事をあらためて実感させられます。

違うものに触れるということは、自分というものを再認識させることであると同時に、常識の枠を緩めてくれる働きもあります。この本は現在第二弾も発売されています。笑いながら少し頭を柔らかくされてみてはいかがですか。(浄)



しつかえなければ」と「よろしければ」はどうですか？ 何気なく使っている日本語ですが知らない事が沢山あ

徳法寺

金沢市野町

二丁目三二一四

TEL 二四一―五二一九

◎お講 (石坂同信会主催)

毎月二十一日

午後七時半より

講師

四月 細川 公英

五月 杉谷 浄

六月 西山 彰

七月 杉谷 浄

◎自由にご参加ください。

◎報恩講

五月三十日(日)

午前九時半より 勤行

正信偈のお勤め

午後十時半より 法話

木越祐馨氏(光琳寺住職)

正午より 御齋

手打ち蕎麦 更科藤井

午後一時半より 音楽

北山吉明氏(ボーカル)

午後二時半より 講演

青木新門氏(作家・詩人)

各寺のご案内

◆常德寺

金沢市寺町

五丁目一番二九号

TEL 二四一―二六四九